



最近、手芸にはまり、休日は家にこもってちまちまと小物を作っています。下手の横好きでよく失敗しますが、完成したときは達成感があり、作業中は無心になれるので良い気分転換になっています。

衆議院の意思を伝える仕事

大島 優果

議事部議案課庶務第二係長
(平成26年入局)

私の所属する議事部議案課では、内閣や議員から提出される議案（法律案や予算等）の受理、その議案の審査を行う委員会への付託、議案の修正、本会議で議決した議案の参議院への送付等といった国会での議案の取扱いに関する一連の事務を所管しています。

議案課の業務全体を通して見ると、法律案が国会に提出されてから成立して法律となるまでの流れを追うことができますが、その中で私は主に議案の送付等を担当しています。議案の多くは衆議院の本会議で議決されると参議院へ送付されることになります。このとき、議決内容などを記した送付文と共に議案の原本を参議院へ持参することが私の仕事の一つです。また、議案に限らず内閣総理大臣の指名や臨時会の会期などについての議決があったときも、その内容を参議院や内閣をはじめとする関係機関へ通知するため文書を持参します。送付や通知の文書には議長の公印が押されており、これらの文書を相手に渡すことが衆議院で決定した事項を正式に伝えることを意味するので、通知の文書や議案原本を持ち、送付等に向かうときは毎回気が引き締まります。

上で挙げたとおり議案課内だけでも色々な業務がありますが、衆議院事務局全体となるとその仕事は多岐に及んでいて、それぞれの部署で様々な経験を積むことができます。異動する度に全く異なる業務に携わることになるので日々の勉強の必要性を感じますが、その一方で幅広い業務に携わる中で自分では気付かなかった特技に気付いたり、思わぬ知識が役に立ったりする面白さもあります。衆議院事務局の仕事に少しでも興味を持っていただければ幸いです。

論戦の現場で

佐野 倫子

委員部第四課課長補佐（安全保障委員会担当）
(平成16年入局)

国会の委員会の様子は、ニュース映像等でご覧になったことがある方も多いかもかもしれません。委員会を開会するかどうかは、与野党の理事の協議を踏まえ、委員長が決定します。その際、日時、議題、議事の進め方、時間配分といった細部も含めて与野党間で合意ができていなければ、スムーズに開会できません。委員部は、与野党双方とやり取りし、それぞれが判断に必要な情報を提供するなどして、こうした協議の進展をサポートします。この間、政府や各党派等の関係者とのコミュニケーションも欠かせません。私が委員部で勤務するのは新人時代と現在で二度目ですが、資料作成や連絡業務を主に担っていた若手職員の頃とは立場が変わり、委員長や理事等に直接説明したり、関係者と調整したりする役割が中心になりました。どのタイミングで、何を、どう説明すればいいか試行錯誤の連続で、調整の末、協議がまとまったときは、少しほっとできる瞬間です。その後、気持ちを切り替え、協議結果に沿った議事が行われるよう準備を整え、委員会当日は委員長の議事運営を補佐します。

委員会の現場で初めて仕事をした時のことを思い返すと、当時の緊張感がよみがえります。経験を重ねたおかげか、今では、多少図太くなったかもしれませんが、それでも委員会は毎回決して同じように進まず、気は抜けません。委員会が無事に散会したときの、安堵感と達成感が入り混じったような感覚は、今も変わりません。熱い論戦を目前にしながら業務に当たるのは独特の経験で、現場でしか感じられない空気があると思います。少しでも、そうした現場に立ち合いたいと関心を持っていただけたなら、ためらわずに衆議院事務局の門をたたいてください。



旅先で食べたジビエ料理があまりにもおいしくて、ジビエ熱が高まっています。いちおしは鹿肉です。